授業名	地域課題 PBL　D（地域魅力発信型）		
英文授業名 ※大学によっては英文成績通知書の記載のために必要となりますので，必ずご記入ください。	Regional Problem-Based Learning (Couse D)		
開講期間	2026 年度 後期		
単位数	2 単位		
授業提供大学	信州大学		
主担当教員氏名	河村　隆		
副担当教員氏名	宮木　慧美		
授業のねらい ※該当しないもの行は削除してください。 ※授業で得られる地域活性化人材の能力と対応するように本授業の達成目標を設定してください。 ※「～することができるようになる」「～することができる」という形での目標設定を推奨します。	授業で得られる 地域活性化人材の能力	⇔	本授業の達成目標
	α　信州の活性化に係る知識・技能	⇔	・信州（特に上田を中心とした地域）の自然，文化，産業，などを広く学び，それらの関係性と魅力を理解できるようになる. ・地域活性化の課題について理解できるようになる. ・自身の専門分野の知識・技能を活用して、課題解決の方向性を企画・提案できるようになる。
	β　信州の活性化に係る課題を発見・解決するための思考力・判断力・表現力	⇔	・地域課題を自ら設定し、調査・分析を通じてその構造的背景を理解できるようになる。
	γ　信州の活性化に係る課題を主体的・対話的に発見・解決しようとする態度	⇔	・他者との対話を通じて、多様な視点を統合しながら協働的にプロジェクトを遂行できるようになる。
授業の概要	「上田地域の自然，文化，産業，仕事を学び，上田地域を盛り上げるコンテンツを作る」をテーマに，地域社会が抱える具体的な課題を掘り起こし，学生が自ら課題を設定し，具体的な解決策の提案までを行う PBL（Problem-Based Learning）形式の科目である。 学生は、連携先の自治体・企業・NPO 等から提供に基づき、調査・対話・試行・提案のプロセスを実践する。教室での学習に留まらず、現場での活動を通じて多様な主体と協働し、地域活性化に資する実践的な能力（課題発見力・解決力・対話力）を習得することを目的とする。 グループ活動による具体的なアウトプット（造形，映像，企画のいずれかあるいは全て）を想定している. 本講座は、【D コース（地域魅力発信型）】として実施する。		
授業の計画	第 1 回	ガイダンス，イントロダクション	
	第 2 回	サステナブルで始めるものづくり （講師：水出博司(日置電機)）	
	第 3 回	上田の自然を学ぶ （講師：伊藤正道（上田市役所））	
	第 4 回	上田の観光を学ぶ （講師：池松勇樹（柳町観光協会））	
	第 5 回	上田の文化を学ぶ （講師：荒井洋文（犀の角／一般社団法人シアター&アーツうえだ代表理事）	

	第 6 回	上田の産業を学ぶ （講師：石子仁（エイト)）
	第 7 回	ものづくりを学ぶ 3D CAD （講師：TA）
	第 8 回	ものづくりを学ぶ 絹・真綿 （講師：繊維学部技術部）
	第 9 回	ものづくりを学ぶ 発酵 （講師：原有紀（信州イゲタ味噌)）
	第 10 回	映像づくりを学ぶ I （講師：上田ケーブルビジョン）
	第 11 回	映像づくりを学ぶ II （講師：上田ケーブルビジョン）
	第 12 回	上田活性化のためのコンテンツ 企画・立案 （協力：長野県中小企業家同友会 上田支部）
	第 13 回	コンテンツの具体的検討
	第 14 回	コンテンツの完成を目指して
	第 15 回	成果発表・ポートフォリオの記入、授業アンケート
評価 ※100 点満点の点数をどのように付けるのかを記載ください。(小テストの回数や配点等)	・地域期の現状理解と課題設定：30 点→個人課題（レポート）等による評価 ・最終提案と発表：30 点 ・個人ポートフォリオおよび最終レポート：20 点 ・協働的態度と学習姿勢：20 点 合計：100 点 成績評価の基準　調査・対話・試行・提案の各プロセスについて実践している場合,『その水準にある』. 教室での学習に留まらず，十分な自己学習ができている場合,『やや上にある』. 現場などでの活動を通じて関係他社と協働ができている場合,『かなり上にある』. 地域活性化について十分な実践的な能力（課題発見力・解決力・対話力）示した場合,『卓越している』.	
事前事後学習の内容	【事前学習】地域課題・テーマに関する調査、参考事例の確認 【事後学習】ポートフォリオの記録、学びの振り返り、レポート作成	
履修上の注意	本講座の特性上，授業への出席は当然のこと，授業時間外の調査，レポートの取りまとめなどが必要である. 他の地域課題 PBL コースとの合同成果発表会を計画している．日程は授業中に示す.	
教科書	なし	
参考書	なし	